



# なきごえ

1990

10

大阪市  
天王寺動物園協会

ある猫記



竹島昌威知

家が狭いので生きものは飼わない積りであった。それが、近所の子供がダンボール箱に子猫を入れ、いじめているのを見兼ねて、妻が助けてから仕方なく飼うことにした。

もともと私は動物好きで、子供の頃は小鳥・犬・魚などを飼っていた。犬は外に連れ歩けるので特に好きだった。猫は家の中ばかり、健康的でないためあまり好きではなかった。ところが子猫を助けて以来、腕に絡み付いて、人が歩くに足にじゃれ付き、跳び付いては落ち、歩いては転ぶ仕草を見て可愛くなり、徐々に好きになった。

好きになると、じっくり観察したくなるのが私の癖である。よろけながら部屋の隅でシッコをし、ウンチをする。砂を入れた木箱をと思ったが、後の始末を考えると面倒なので、紙箱の中に新聞紙を敷いて落とし紙を重ねてトイレとした。一度そこでやれば二度とほかではしない。後は新聞紙ともくるんで捨てるので手間が省ける。

猫も三ヶ月飼えば成人じゃなく成猫となる。黒白のメスなので安易にミーコと命名したが、健康な猫で六匹も子を産んだ。オス二匹、メス四匹で毛並みはまちまち、この毛並みの違いが性格の違いを表わしていることを知った。

子猫に名をつけなくてはと、最初に生まれた三毛をトッポ、次に生まれたのをジージョとした。次々とメスをオリーブ、オスをボバイ、鼻先が桃色のをピンク、眼が透き通るようなブドウ色なのでブルーと、ネーミングは易しかった。食事時、七匹の猫が餌を漁るさまはすさまじいもので、やや大きい皿鉢に入れた餌を、一斉に頭を寄せあって食べ、凶々しいのは体ごと入って貪っている。

子猫の頃はじゃれあってはいたが、思春期ともなると大変な騒ぎとなった。オスはボスとなるため力を貯えほかのオスを牽制する。当然兄弟でも他所ものでも容赦しない。縄張り半経か直経か忘れたが、約200mと聞いている。その範囲でボスは一匹となると、ほかからきた猫は追い出されるだけでなく、凄惨な争いの末追い出すか、ときには殺しあう。

春先、屋根の上で嬌声を上げてラブコールされるといわれるが、あれは奇声を発して縄張り外のオスとこちらのオスとが闘争する声で、メスとのラブコールはもっと短く、または低く長い。オスは兄弟でも力の弱い方は悟ったように家を出ていく。

メスは何匹いても仲良くしているが、他所ものは皆で追い出す。どの猫も排他的で嫉妬深く、「オリーブ」と呼べば、ほかの猫はそ知らぬ顔ですわっている。抱き上げれば俺もわたしもすり寄ってくる。黒猫は総じて大人しく、白猫はどうも弱々しい。三毛は人なつっこくて黒白は気が強いようである。

子猫の時代はそうでもなかったが、成猫ともなれば食べる量も増え、排泄も容易でない。お腹を満した後は、一斉にトイレに駆けていく。先のが遅いと啼いて催促したり一緒に入ったりしているが、後が大変、ばたばたさせられる。一段落がついたと思えば次はウンチ、別の箱に紙を敷いて待機、済めばさあっと差し代える。

このような生活が続いたある朝、台所の隅に黒い塊を見た。見ればミーコである。猫は飼い主に死姿を見せないとされるが、あれは嘘か？ まさにミーコが死んでいる。丁重にタオルケットにくるんで環境事務局の人を待った。以前に犬を死なせたことがあるので、たとえ短い期間であっても、生活を共にした動物との死別は悲しい。環境事務局の車に積み込まれたミーコに、後ろからそっと手を合わせた。それでも凝りず、その後メス猫のお産を手伝い、のら猫を助けて一時は十数匹にもなったが、適当に淘汰されて目下五匹が、わが家の籍にあって再びベビーブームの様相を呈している。餌のない猫は俺んとこへ来い、束ねて面倒見てやるから！ これは一種の猫(病)気かも知れない。

(日本ペンクラブ会員)
(日本詩人クラブ会員)

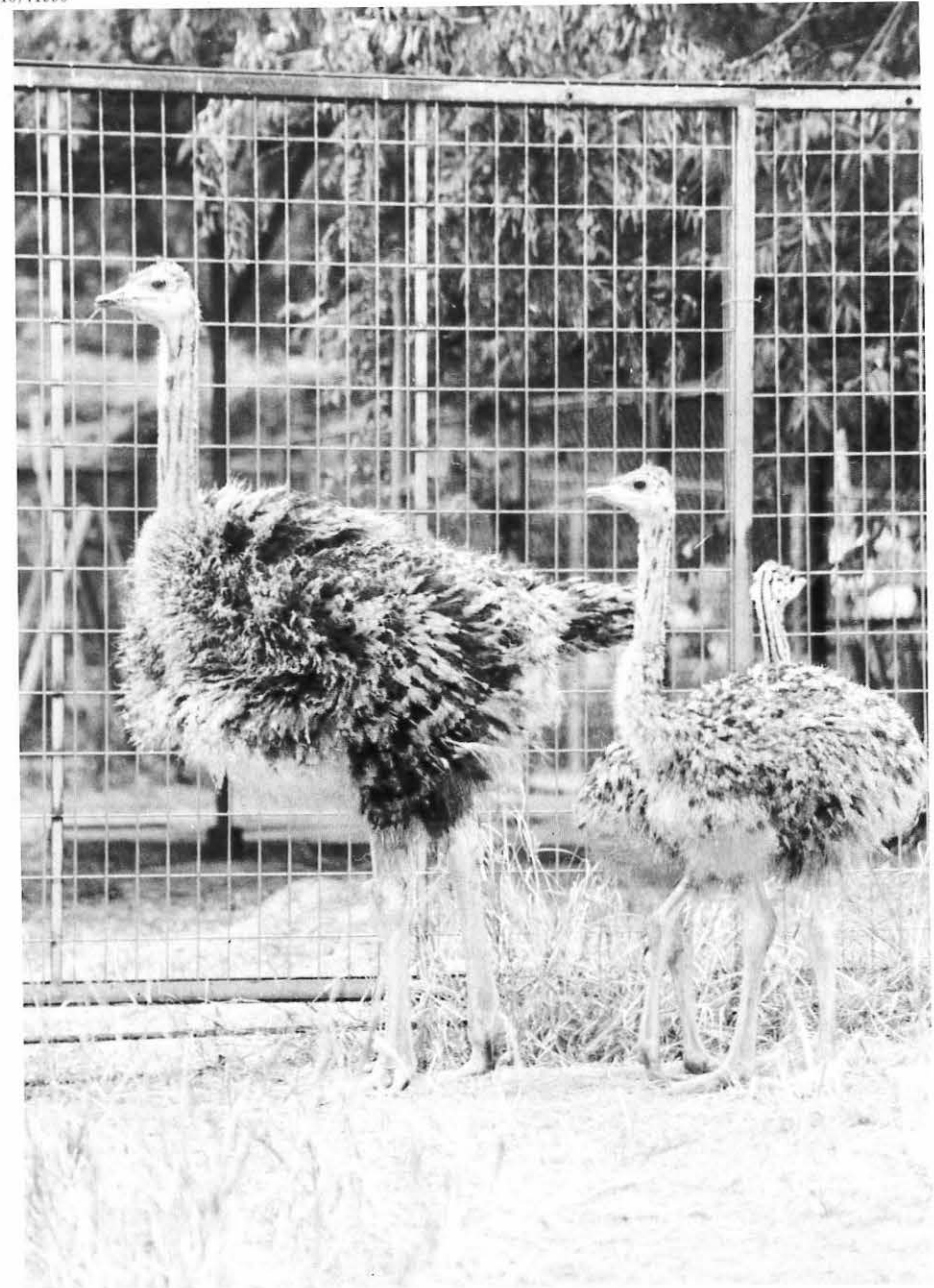
なきごえ10月号もくじ

動物と私 ..... 2
"65年ぶりにダチョウのヒナ誕生"..... 3
天王寺動物園の教育普及活動 .....4-5
海遊館見学記 ..... 6-7
動物園グラフ・日記 ..... 8-9
公園花だより ..... 10
動物園ニュース ..... 11

表紙の写真説明

"シシオザル" (Macaca silenus)
インド南西部に分布するオナガザル科のサルで、尾の先端がライオンのように房状になっていることから、獅子尾猿の名があります。表紙の個体は日本のシシオザル繁殖計画支援のためにセントルイス動物園から贈られてきたオスです。

(撮影：宮下 実)



"65年ぶりにダチョウのヒナ誕生"

(Struthio camelus)

天王寺動物園では、ダチョウのヒナが6月5日、65年ぶりにふ化しました。続いて、6月26日、7月10日にもふ化し、現在も3羽が元気に育っています。

(撮影：赤松 建)

動物園の教育活動は、多くの園で様々な創意と工夫がなされ、独自の活動がされています。ほとんどの園で実施されているものにサマースクールがありますが、そのカリキュラムも講義中心的なものから実習中心的なもの、対象年齢も小学生から高校生にいたるまで幅広く様々です。又、そのシステムも専門のセクションだけや係員だけが行うところから、すべての職員がなんらかの関わりをもって実施をする、さらにボランティア、アルバイトの人々もそれに加わる園もあるようです。その他、ズーガイドと呼ばれる活動を日常的に開催する園もいくつかあります。

天王寺動物園もサマースクールは16年を経過しました。年々参加希望者は多くなってきています。最初の頃はボランティアの人々が指導にあたり、飼育現場では担当者は話だけをするという形が多かったようです。現在のように実習が盛んに行われるというものではありませんでした。最近ではボランティアと飼育担当者が協力し合って、できるだけ実習を多くとり入れた参加型のサマースクールになってきたように思われます。

サマースクールの活動については別の機会に紹介されると思いますので、今回は昭和60年に発足した天王寺動物園教育委員会、現・動物園教育活動委員会、通称「動教委」の活動を紹介します。

“動物園は教育施設だ。”もともと活動しなくてはならない。その声はけっして新しいものではなかったのですが、具体的にどのようにすればいいのか、なにができるのか、きっかけもなく組織的な活動までにはなかなかいきませんでした。しかしその間に、レクチャールームの完成もあり、その活用も含めなにか起さなければという意見が飼育現場からでてきました。そのような流れの中で、自分達が自主的に活動をしようとしたのが、“動物園教育委員会”です。特徴的なものとしては飼育部門だけでなく、動物園を構成するすべての部門から各々委員が選出されていることです。(現在12名)

当初から行なわれたことは、レクチャールームでのスライドを使って「スライドとお話しの会」でした。毎月の第3日曜日の午後1時から約1時間、動物の飼育記録や、動物園の仕事の紹介、猛獣の話あるいは水鳥の話等のテーマをしばった話題を、各々の担当者がスライドを使ってお話しをする会です。それぞれ、スライド以外に飼料や卵から糞等もさらに実物を連れてきたりして、それなりに工夫をするのが楽しみなものでした。しかし、動物園にこられるお客さんは、動物を見にこられているわけですから、それらの人々をレクチャールームに誘導するのは容易ではなく、委員の積極的な“呼びこみ”が毎回必要となっています。各回のテーマは

年2回位の割合で向こう半年間のスケジュールを決めるようにしています。ただ一人で約1時間も話をすることは、だれでもが上手にできる事ではありませんから、段々と限られた人になってきました。だれでもがやってみようという発足時の方向からは少しゆきづまりが感じられるようになり、そこで考案されたのが、「動物園裏側ウォッチング」です。これはある動物園の活動がヒントになったものです。動物舎の寝室や公開していない施設、(病院、調理場、ボイラー室)を委員が案内し、個々の説明は、その担当者に行ってもらおうという方法です。それ



裏側ウォッチング  
ゾウ舎の寝室で説明をきく

だと会話形式になり短時間のため負担も軽くなり協力を得やすいだろうと思われました。お客さんにとっても参加型の活動になると考えたわけです。数回の準備がありはじめての日(平成元年11月19日)がやってきました。はたして人が集まるかどうか、又、集まりすぎたらどうしようかなどの心配はありました。この日は好天に恵まれ入園者も多く混雑が予想され引率に不安もでてきました。前宣伝としては動物園入口のはりがみと、園内放送を15分程に1回行っただけです。いつものレクチャールームでの会では何回も何回も放送をし、呼びこみをするのですが、この日は一回だけで止めました。何故かといいますと、集合場所であるレクチャールームの入口にはすでに10分程前には40人近くの人々がならんでいたからです。定員40人、20人ずつ時間をずらして歩くという計画でしたので、もし多く集まれば早目に対処しよう決めていました。すぐに放送は止めてもらい、並んでいる人数が切りのいいところでレクチャールームに入ってもらいました。簡単な注意説明の後20人ずつにわけ、はじめはゾウ舎の裏側からで、山積にされたワラ、乾草等の飼料やコンテナ一杯に入った一日の餌の量、それにゾウの糞の大きさと量など、目の前で説明されると非常によく理解されるようです。寝室の中へは少しだけ入ってもらった予定でしたが、担当者がもっと中へ入って下さいというものですから、むしろこちらが心配した程です。ゾウの鼻息が建物の中にひびき迫り力十分の効果がありま

した。続いてコアラの飼料であるユーカリ見本園、ここでは飼育係ではなくユーカリ管理の担当者に説明をもらい、フィルムケースにコアラの糞とユーカリの葉を入れてユニークなお土産にしてもらいました。なかなか人気はあったようです。コースはさらに、カモシカ園→サイ舎→トラ舎寝室→ハ虫類舎→調理場→病院→ボイラー室→キジ舎裏側→事務所前解散というルートでしたが、いずれの場所でも担当者が張り切って、前日に秘策を練ったかのようなサービスぶりでした。委員は案内するだけに徹するというのがよかったのかも知れません。尻ごみしていた人が当日は雄弁になり大幅な時間超過をしてしまいました。いい意味で競い合いは見ていたのもしく感じられたものです。ボイラー室ではわざわざ火を入れ機械の内部をみせてもらうことができました。動物を守る大切な裏側の仕事を理解してもらえたことだと思います。約2時間程かかりかけて楽な行事ではありませんでしたが、大好評でした。この日私達は多くのことを学ぶことができました。教育という言葉のせいでしょうか、今までは教えなくてはという姿勢が強く知識を伝えるということが教育活動だと思っていたようです。もちろん学術的な研究成果を伝えることも大切なことですが、多くの入園者にとっては生きた動物からしか得ることの出来ない感動に期待があるのではないのでしょうか。その生きた動物の中には「動物園で働く人達」もふくまれているかも知れません。普段のままで入園者の中に積極的に入り込み、「この動物」のことを話してくれる動物園のオッチャンや兄ちゃんがりっぱな教育者なのかもしれないと思います。現在の天王寺動物園ではこのようなやり方が一番似合っているのではないのでしょうか。



裏側ウォッチング  
ボイラー室内部

さらに今年の春の動物園祭りには、いままで動物映画の放映を動教委が行っていたのを、一度広いステージでなにかをしようと企画をたてました。子供達にステージがあがってもらってのクイズ合戦ですが、いわゆるクイズの他、目かくしをして動物を

さわってあてる「さわってポン」と動物の飼料をみてなんの餌かをあてるというものです。もちろん進行からすべて独自で行いました。当然スマートにはいくはずはありません。入園者参加型が主催者参加型になり当初の予定では裏側に徹するはずの委員が一度ステージに上ったまま、もどってこないのですから、いかにも大阪的というのか、一番楽しんだのは動教委のメンバーだったかも知れません。このようなステージ活動は今年の秋の動物園祭りにも再び実施する計画をたてています。楽しくて動物園の仕事を理解してもらえるようなアイデアを練っています。

その他、今年は初めて動物舎の前で担当者が話をするガイド、「ふれあいガイド」をゾウ舎の前で餌と糞を並べ、担当者が説明を行いました。また希望者にはホースでゾウに水をかけてもらいたのしんでいただきました。

このようなガイドはすでにボランティアがいろいろな場所で定例的に実施しているのですが、又、ひと味ちがったガイドになったと思っています。

教育活動も低俗になるようなものでなかったらどんどん試行していけば開けてくるものと思っています。動物園にいけば、いつも「おっちゃん」の話が聞ける。このように根付いた活動が続いていけば教



春の動物園まつり  
動物クイズ大会

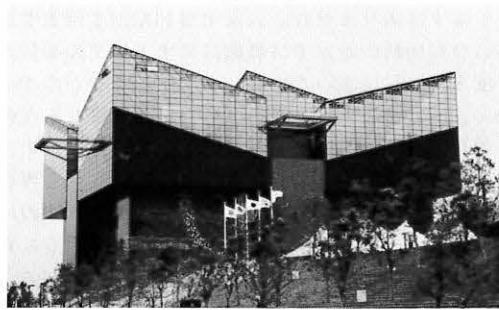
育施設だといえるようになるのかも知れません。今後ますます動教委のメンバーをはじめ、天王寺動物園のすべての人達でこの活動を発展させていきたいと思っています。

(飼育課：大野 尊信)

★1990年度の活動

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1月 エトの話          | 7月 アシカの話        |
| 2月 トラ、ライオンウォッチング | 8月 ゾウふれあいガイド    |
| 3月 レッサーパンダの話     | 9月 今年生まれた赤ちゃん   |
| 4月 フクロウの話        | 10月 動物園祭りステージ活動 |
| 5月 動物昔話          | 11月 コアラウォッチング   |
| 6月 オオカミの話        | 12月 裏側ウォッチング    |

地下鉄中央線大阪港駅で降りて、歩くこと約5分。目の前に鮮やかな赤色と青色のビルの上に温室をのせたような巨大な建物が見えてきます。これが7月20日にオープンした『海遊館』です。



これが海遊館だ!!

既に新聞・雑誌・テレビなどで紹介され、すごいすごいとは聞いていましたが、実際に見てみると、確かにすごい。何がすごいかというと、まず、人間の数がやたら多い。朝10時からの開館というのに9時にはもう人の列ができ、ピーク時には蛇行した人の列、列、列。入館できるまでの待ち時間は長いときで約2時間とのことでした。

さて、話を本題にもどして、『海遊館』見学の模様をお話しします。エントランスビルを通り抜け、大阪港を右手に見ながら長いエスカレーターで最上階の8階にのぼると、そこは第1のゾーン「日本の森」です。

このゾーンに入ってまず驚かされたのは空間の広さとその中にある木の多さ・岩の大きさです。まるで大きな温室の中に日本の自然の森がそっくり移動してきたように思えます。どこかで見たことのある風景だなと思ったら、私の出身地島根県の山の中にそっくりです。森の中に滝があって、岩の間を流れるせせらぎがあって、魚が泳いでいる、そんな風景がそこにあります。よくこんな風景が再現できたなと思いつつ目を凝らすと、なんと中央の太い老木も大きな岩も人工のものなんです。もちろん、本物の木々もたくさん植えられていて、どれが本物なのか作り物なのか全く見分けがつかない。この点に、『海遊館』の特色の一端を見ることが出来ます。



どれが擬木でどれが本物? 「日本の森」

次に驚かされるのは、カワウソやオオサンショウウオがイワナなどの魚類と同じ空間に展示されていたことです。また、「日本の森」の真下の7階の場所には、先ほど上から覗いて見たカワウソの泳ぐ姿

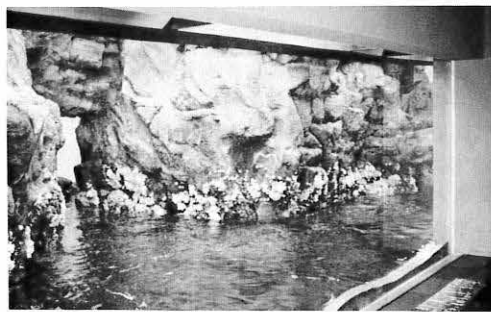
やカルガモ・オシドリの浮かぶ姿、潜る姿を見ることが出来ます。「海遊館って水族館のはずなのに?」と疑問をいだかれる人も多いと思いますが、これもこの『海遊館』の特色の1つです。

つまり、魚類や海獣などを展示するだけでなく、水際に棲息する哺乳類や鳥類、爬虫類、両生類も展示するとともに、それぞれの動物の住む地域の自然環境をも忠実に再現するという『海遊館』のポリシーが、まず最初のゾーン「日本の森」で感じることが出来ます。

『海遊館』にはこのように動物とその動物の棲息している自然環境を忠実に再現したゾーンが14ヶ所もあります。では、それぞれのゾーン順路に沿って簡単に説明しましょう。

「日本の森」の次に現れるのは、アラスカ沖、北極圏にある「アリューシャン列島」です。ここでは海面に浮かび餌を食べたり、潜って泳いだりしているラッコの姿をじっくり見ることが出来ます。

次のゾーンは、北米大陸カリフォルニアの「モンタレー湾」です。ここでは、カリフォルニアアシカとゴマフアザラシがひなたぼっこしている姿や泳ぐ姿が見れます。動物達に目を奪われがちですが、よく見ると岩にくっついているフジツボなどの貝類は全て擬岩であることに気づきます。



これもすべて擬岩「モンタレー湾」

続いてのゾーンは、中米の「パナマ湾」です。このゾーンには魚類のほかにフタユビナマケモノやチドリ仲間ツメバケリが熱帯を再現した中で同居展示されています。

同じ熱帯でも次のゾーンは、南米の「エクアドル熱帯雨林」が再現されています。熱帯の木々が生い繁る中でリスザルが飛び跳ね、水辺にはメガネカイマンやグリーンイグアナが、水中にはアロワナ、ピラルク、ヨロイナマズなどが展示されています。なかでも、水中に入っている時のメガネカイマンの姿や動態を水面



めったに見られないワニのおなか「エクアドル熱帯雨林」

下から見る事ができるのに感激しました。

さらに感動させられるのは次のゾーン「南極大陸」です。氷を砕いて作った雪が降り積もる氷の上をユーモラスに歩くオオサマペンギン・ジェンツーペンギン・イワトビペンギンの姿とそれらのペンギンが海中ヘダイビングする姿を見ることが出来ます。ガラスがくもってちょっと残念な気もしましたが、かえって南極大陸らしさを感じました。

「南極大陸」を過ぎるとニュージーランドとオーストラリアの間に位置する「タスマン海」が現れます。2頭のかわいいイロワケイルカが仲良く泳ぐ姿を見ながら歩を進めると、次はかの有名なオーストラリアの「グレートバリアリーフ」です。珊瑚礁を海面から覗き込むように見ると、色鮮やかな熱帯魚がたくさん泳いでいるのがわかります。

次に見えてくるのは日本の「瀬戸内海」の海中です。そして右手には話題のジンベイザメが泳ぐ大水槽が現れます。この大水槽は太平洋の雄大な光景をイメージして作られ、『海遊館』のなかでも中心的な展示で、なんと深さは9メートル、水槽容積は約5400トンもある大きなものです。

これから先、『海遊館』の順路はこの「太平洋」を中心に螺旋状に上から下へと下って行きます。

巨大なジンベイザメやエイ類、ブリやマグロの回遊魚、群れを成すシマアジやマアジなどが泳ぐ「太平洋」を右手に見ながら順路に沿って歩いていくと、先程海面付近を見ていた「アリューシャン列島」や「モンタレー湾」、「パナマ湾」、「南極大陸」、「タスマン海」、「グレートバリアリーフ」の海中の様子を見ることが出来ます。ラッコやカリフォルニアアシカ、ゴマフアザラシ、ペンギン類、イロワケイルカなどの海中での動態とその環境がよく観察できます。動物もさることながら、この階で一番目を引かれたのは「グレートバリアリーフ」です。ここにある珊瑚礁は全て本物から型取りをして作られた擬岩だそうですが、現在現地でも数少なくなったと言われていた美しいダイビングスポットをそっくりそのまま持ってきたようで、しばし言葉を忘れてしまいました。

またこの階では、「モンタレー湾」の反対側には同じカリフォルニア沿岸にある「ケルプの森」が、「エクアドル熱帯雨林」の階下にあたる場所には同じ南米の「チリの岩礁」が、「タスマン海」の反対側にはアカウミガメやアオウミガメが泳ぐニュージーランドの「クック海峡」がそれぞれ再現されています。



写真より実物をもっと美しい「グレートバリアリーフ」

さらに下の階では「太平洋」やその他のゾーンの海底部分が再現されています。後で、パンフレットを見て気づいたのですが、この階で見た「日本海溝」もちゃんと「日本の森」の真下の場所にあります。

この「日本海溝」で『海遊館』見学の旅は終わりますが、ここで、「日本の森」でも述べた『海遊館』の特色の他になお、2・3の特色をまとめて書いておきます。

1つは『海遊館』の各ゾーンの配置に関してです。『海遊館』では広大な太平洋とその周囲に位置する環太平洋火山帯上の海岸や島々の自然とそこに棲息する動物たちがそれぞれ配置・展示されていることです。太平洋と環太平洋火山帯、これ自体が『海遊館』のテーマであり、『海遊館』の建物もシンボルマークも太平洋と環太平洋火山帯をイメージして作られたと聞きました。

もう1つは、各ゾーンが地上や海面付近だけでなく、海中や海底まで全て見ることが出来ることです。8階から順路に従って進むと海はだんだん深くなって行き、自分自身がアクアラングを身に付けて潜っているような錯覚に陥ります。各ゾーンの深さは、人々に、地上から海底まで連続している自然環境とそこに棲息している動物の生態を見ることが出来るだけでなく、やや狭いと思われる各ゾーンの表面積のかわりに動物たちが十分な運動量を得られるように考えられた結果でもあると思います。

今までの水族館ですと、ただ世界各地の珍しい魚類を集め展示している感が否めなかつたのですが、『海遊館』は展示方法に関しても、ストーリー性に関しても全く新しいタイプの水族館だと言えます。最後に疑問点を1つ。『海遊館』では説明札が小さく、またその数も少なくほとんど目立ちません。これはいったい何を意味するのでしょうか?私には製作者がこう言っているように聞こえます。「あなたが『海遊館』で見えてきたものは限りなく本物に近い自然の形を表現したものです。本物の海には説明札なんかありません。できるだけ多くの人々に見ていただき、興味の湧いてきた人は自分でいろいろ調べ、勉強した上でもう一度来て下さい。そうすれば、初めて見た時とはまた別の感動を味わうことが出来るはずです。」

(飼育課: 竹田正人)

# 動物園グラフ

## レストラン “TENNOJI ZOO”

さあ「食欲の秋」、人間ばかりではなく動物たちももりもりと餌を食べています。大食のカバやアジアゾウ、小食のアカネズミ、豊富なメニューのローランドゴリラなど、レストラン“TENNOJI ZOO”のメニューを紹介します。皆さんはどれがお好みかな？

(構成・撮影：榊原 安昭)

### アジアゾウ

¥5,769



サツマイモ	10kg	その他	
ジャガイモ	13kg	リンゴ	5kg
ニンジン	7kg	食塩	少々
青刈牧草	13kg	カルシウム	少々
牧干草	23kg		



### ローランドゴリラ (夕食)

¥647

白菜	1/4個	ニンジン	1/2本
キャベツ	1/4個	セロリ	4本
タマネギ	1/2個	リンゴ	2個
サツマイモ	1/2	バナナ	4本
サツマイモ (蒸したもの)	1/2本	季節の果物 (ブドウなど)	1,200g
ジャガイモ	2個	パン	2個
ジャガイモ (蒸したもの)		食塩	少々

## 7・8月の動物園日記

- 7/30. アルダブラゾウガメとヒョウモンガメを日光浴のためカモシカ園に移動しました。
- 8/1. ブラックバック(雌)が1頭生まれました。熊本動物園の獣医さん他1名の方が来園見学されました。
- 8/2. 鳥の楽園で今季最初のアカハシリュウキュウガモがふ化しました。
- 8/3. アメリカ合衆国のセントルイス動物園からシシオザル2頭が贈られてきました。
- 8/4. トンガ王国の副首相代行他4名の方が来園見学されました。

- 8/5. ヒョウの赤ちゃんに2回目の予防接種をしました。人工育雛中のファンボルトペンギンが換毛し始めました。
- 8/7. セントルイス動物園から贈られてきたシシオザルの雌と5/24ワシントン動物園から贈られてきた雌の同居展示を開始しました。
- 8/11. ヒヨドリ、ツバメ、キジバト各々1羽を保護しました。
- 8/13. カワセミを1羽保護しました。
- 8/14. セントルイス動物園から贈られてきたシシオザルの雄と8/7同居展示を開始した雌2頭の同居展示を開始しました。

### カバ(夕食)

¥4,713

キャベツ	2.5kg	燕麦新芽	15kg
サツマイモ	2.5kg	草食獣用ペレット	6kg
ジャガイモ	2.5kg	フスマ	2.5kg
ニンジン	2.5kg	食塩	少々
青刈牧草	20kg	カルシウム	少々



### ライオン

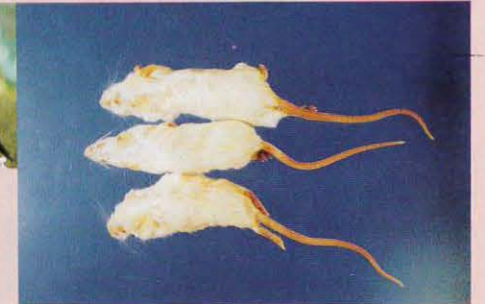
¥865

馬肉	1.5kg
鶏肉	2kg
ビタミン剤	少々

### ワライカワセミ

¥300

ハツカネズミ 3匹



### アカネズミ

¥1.69

サツマイモ	10g
ヒマワリ	5g
ドングリ	15g

- コアラ6頭の体重を測定しました。
- 8/15. 6/20生まれのヒョウの赤ちゃんを母親とともに一般公開しました。テンを1頭保護しました。
- 8/16. カワセミ、キジバト各々1羽を保護しました。
- 8/17. オオバン、ツバメ、コシアカツバメ各々1羽を保護しました。
- 8/19. ウミネコ、ツバメ各々1羽を保護しました。
- 8/20. カワセミ、ツバメ各々1羽を保護しました。東武動物公園の飼育技師の方2名が来園見学されました。
- 8/21. 名護自然動植物公園の園長が来園見学され

- ました。
- 8/22. カニクイザルが1頭生まれました。
- 8/23. トカラヤギの双仔が生まれました。ハクビシンの赤ちゃんが巣箱から初めて顔を出しました。静岡市立日本平動物園の飼育課長が来園見学されました。
- 8/25. シロハラミズナギドリ、ササゴイ、アオサギ各々1羽を保護しました。
- 8/28. ヒョウの母子と父親の同居展示を開始しました。
- 8/29. 保護し元気になったゴイサギ等の鳥類15羽とタヌキ1頭を自然復帰させました。

☆ 花だより

秋のさわやかな季節となつてまいりました。今年  
は、「国際花と緑の博覧会」が、鶴見緑地で開催さ  
れ、多くの入場者が花と緑について知識も新たに  
された事と思ひます。

動物園内にも15ヶ所の花壇と多数のフラワーベ  
ースを配置し入園者の皆様に動物と共に観賞いた  
いであります。

秋の代表的な花と言えば「菊」。今日、多くの  
人びとに栽培される観賞ギクは、天平時代の末に  
中国から渡来し、以後千年の歴史に支えられて  
います。特に元禄のころから積極的に品種改良が  
進められ、やがて今日の花の原形がほとんど出  
そろいました。

趣味的に栽培・観賞されるものは、主に秋菊  
で、秋菊は、頭花の大きさによって大輪菊、中  
輪菊、小輪菊に大別され、一般には大菊、中菊、  
小菊の呼称が用いられています。大菊は花の直  
径が18cm以上のものをいい、厚物、管物、広  
物に分けられます。中菊は18cm以下、9cm以  
上のもので、江戸菊、肥後菊、伊勢菊、嵯峨  
菊等に分けられ花形もユニークです。小菊は  
9cm以下のもので、多彩な色と花形があり、  
用途も広く、玉作り、懸崖作り、文人作り、  
盆栽作

りなどいろいろに利用されます。

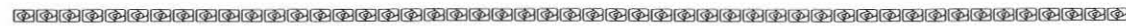
これらの菊は園内の花壇等でも見ることが  
できますが、今年、有料公園としてオープンした  
天王寺公園の沈床花壇、小川の小径、水の広  
場、バラのアーチ、植物温室等でもご覧にな  
れます。

特に公園の展示コーナーで開催する菊花展  
は、10月25日から11月18日まで開催され、  
市民の愛好家の方々が丹精こめて作られた  
作品が多く展示されます。

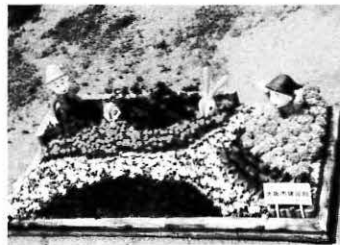
又、期間中、菊作り教室等も実施して  
いますので、ぜひ一度、秋の一日を動物園、  
公園にご来園いただき楽しんで下さい。



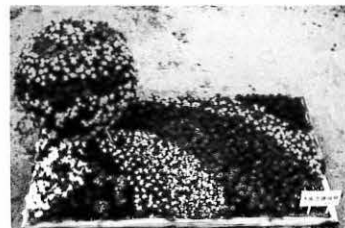
管物と厚物  
(管理課：中垣 圭史)



☆ 花壇フェスティバル



昨年出展した動物園の花壇



他の公園事務所の出展作品

今年も北区の扇町公園で花壇フェスティ  
バルが開催されました。

この大阪花壇フェスティバルは今年で4  
回目を迎へ、年々規模が大きくなり、趣向  
も凝らされ立派なものになっています。

今年も9月22日(土)～9月30日(日)の9  
日間、北区の扇町公園で公園事務所10ヶ  
所と民間の造園業など13団体が参加して、  
その腕を競いました。当園もこのフェス  
ティバルには第1回目から参加して  
いますが、今年も9月19日から製作  
作業に入りました。この花壇フェス  
ティバルには厳しい規定があつて、  
1.7m×3.0m 5.1㎡の定型の面積に  
支給される15種の花卉を用い、その  
花の占める割合も7割と定められ、  
花以外のものとして石、水、樹木の  
使用だけを認めるという厳しいもの  
です。

出来上つた花壇はバラエティに富んだ  
もので、行きかう市民の目を楽ませ  
ていました。

(管理課：西野 均)

§ セントルイス動物園からシシオザル2頭の  
プレゼント

絶滅の危機にあるシシオザルの国内繁殖を  
推進するため、当園が中心となつて、その  
繁殖計画の調整を行つていますが、5月  
にワシントン動物園からのプレゼントに  
続いて、8月3日には、セントルイス  
動物園からオス「マックス」とメス「ソ  
フィー」の2頭が贈られてきました。2頭  
とも大変おとなしく、ワシントン動物  
園から贈られたメス「アンジャナ」と  
8月13日に同居させ、14日から一般  
公開しています。



シシオザルメスのアンジャナ(上)と  
オスのマックス(下)

3頭とも相性もよく、早ければ来年春  
ごろには赤ちゃん誕生のニュースが聞  
けるかも知れません。これでは、当園  
には、シシオザルが2グループ、8頭を  
所有することになりました。

§ カワセミの保護あい次ぐ

8月に入ってカワセミを13日、16日、  
20日と8日間のうちに3羽も保護しま  
した。当園では過去14年間に、6羽保  
護して



保護され入院中のカワセミ

ますが、年間では昭和63年の2羽が  
今最高でした。保護地は、奈良県の  
溪流、兵庫県の山陰海岸、大阪府の  
臨海工業地帯と3府県にわたりますが、  
今回のあい次ぐ保護が、カワセミの  
生息数の増加を示すものであれば幸  
いです。

§ ヒョウの赤ちゃん公開

6月20日に生まれたヒョウの赤ちゃん  
(オス1、メス1)を、8月15日から一  
般公開を始めました。8月5日の体重  
測定ではオスが2.8kg、メスが2.6  
kgと順調に育つておりますが、日光浴  
も必要になつてきたことから、今回、  
屋外への放飼となつたものです。8月  
に28日には父親とも同居展示し、  
ファミリーの仲むつまじい光景を見  
せています。

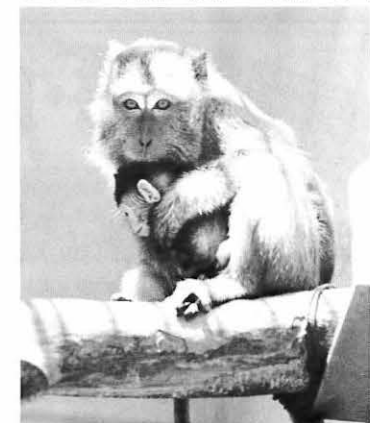
現在の飼育動物数  
(平成2年8月31日現在)

哺乳類	13目	95種	401点
鳥類	20目	183種	765点
爬虫類	3目	32種	67点
合計	36目	310種	1233点

kgと順調に育つておりますが、日光浴も  
必要になつてきたことから、今回、屋  
外への放飼となつたものです。8月に  
28日には父親とも同居展示し、ファミ  
リーの仲むつまじい光景を見せていま  
す。

§ カニクイザルの赤ちゃん  
誕生

8月22日、カニクイザルの赤ちゃんが  
1頭生まれました。母親は今回が4産目  
で、今まで全ての子供が順調に成育し  
ています。カニクイザルはワシントン  
条約附属書IIに該当し、東南アジア  
諸国の国内法でも輸出禁止にしてい  
るほど希少な種類となつていま



カニクイザルの母子(生後3日)

す。現在当園では、5頭を群れ展示  
していますが、母親のお腹に抱かれた  
かわいい赤ちゃんの姿や父親がその  
母子をグルーミングしてやっている  
なごやかな場面も時折ご覧いただけ  
ます。

● テレホンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たつぷ  
りの動物園の案内を、24時間テレ  
ホンサービスで行つておりますので、  
ぜひご利用ください。

電話番号 771-9999

● お知らせ

動物ウォッチング

11月18日(日) コアラウォッチング

12月16日(日) 動物園裏側ウォッチング

時間：午後1時～2時

場所：コアラウォッチングはコアラ舎前。

裏側ウォッチングはレクチャールーム  
から出発。

\* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月曜日(休日の場合は翌日)  
です。

開園時間は午前9時30分から午後5時まで、  
午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間はず？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

### むしくらしとかいかた

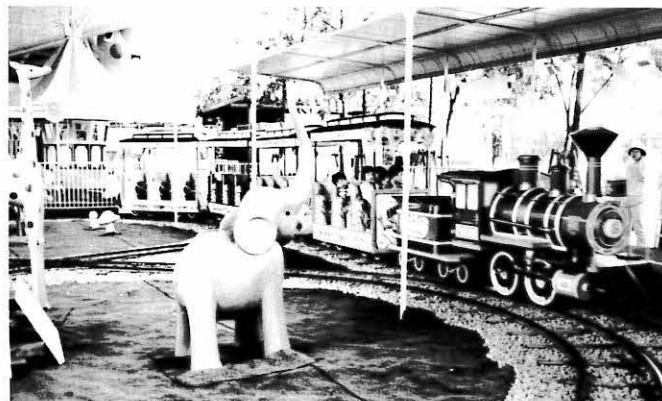
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

オートフォーカスカメラに

## フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです



かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

## 歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死  
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る  
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入  
B6判・270頁  
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究者)
- ☆一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い  
求めになれません。  
直接当会へお申し込みく  
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで  
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

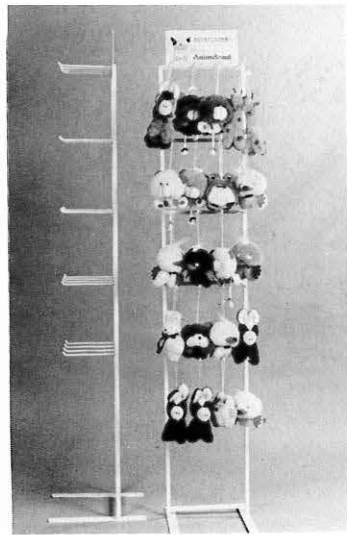
入園の記念・手引に……



オールカラー  
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

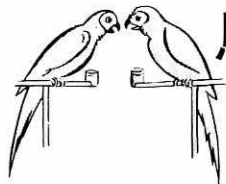


## 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

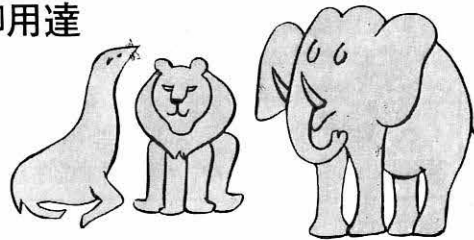
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL : (06) 704-8580  
FAX : (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

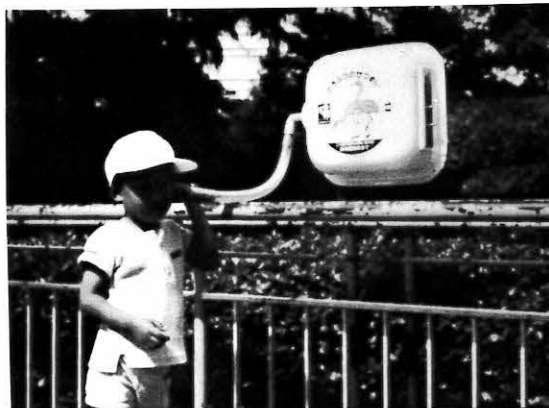


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

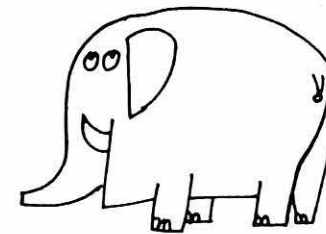
大阪市天王寺動物園内

# 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内

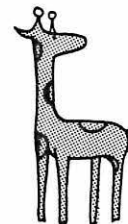


# 南園売店

大阪市天王寺区茶白山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は...

### 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますのでご説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444





唯ちゃんも、  
とってもゼリーも、  
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー  
**とってもゼリー**



野生動物をみんなで守ろう

**WE SUPPORT WILDLIFE!**

天王寺動物園協会の売店に“WWF 国際保護動物ぬいぐるみコーナー”があります。このぬいぐるみにはパンダマークがついており売上げの一部はWWFJ (世界自然保護基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー



お申込み、お問い合わせは——

社団法人 **大阪市天王寺動物園協会**  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 **ファミリア商事部**  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WIDE FUND FOR NATURE)とは？  
世界自然保護基金。世界中の危機に瀕している動物植物と、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1990年10月10日発行 (毎月10日発行) 第26巻 第10号 (通巻302号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

編集委員

伊東重朗 / 大西史朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 奥上 昇 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎  
神原安昭 / 森本委利 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823